



子供たちの未来を見据えて



令和6年度 全国公立学校教頭会

会長 松野博文

鎌倉市立七里ガ浜小学校 教頭

令

和6年1月1日午後4時10分ごろ、石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する地震が起きました。この能登半島地震において犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表すとともに、被災された多くの皆さま方に対しお見舞いを申し上げます。また、一日も早く復旧・復興がなされますことを、心よりお祈り申し上げます。

こういった地震は予測がつきにくく、被害を最小限に防ぐために各学校でも避難訓練や防災教育を行っていると思えます。また、地震がなぜ起きるのか、どのようにして自分や家族を守るのかという知識を深めることも重要です。子供たちは危機に直面したときにどのように行動すべきか、科学的な思考や理解を深めることで、それぞれが危険を避けるべく安全な行動をとることができます。

そして将来の変化を予測することが困難な時代を前に、学校教育はどのように変化し、進化していかなければならないのでしょうか。私たちが目指すべきは、変化に柔軟に対応でき、自身の未来を切り拓くことができる子供たちを育てることです。子供たちにプロジェクトベースの学習や探究学習を積極的に取り入れ、実世界の問題を解決する経験を増やしていくことやデジタル技術のさらなる活用をすることなどで学びの場がさらに広がります。また、社会との連携を強化し子供の視野を広げたり、子供自身のメンタ

ルヘルズに配慮した環境を整えたりする必要もあります。予測困難な時代にあっても、子供たちが自信を持って未来に向かって進んでいけるよう、学校教育は大きな役割を担っていかなくてはなりません。知識の伝達だけでなく、子供一人ひとりの可能性を引き出し、それを最大限に発展させるためのサポートをすることが、求められています。

そのような中、全国公立学校教頭会（全公教）では、「各都道府県および政令指定都市教頭会・副校長会相互が緊密な協調を保ち、会員の資質を高めるための研修を推進し、教育の向上進展に寄与するとともに、会員の地位向上を図る（全公教会則より）ことを目的とし、コロナ禍でも情報ネットワーク環境を整えながら活動を止めることなく進めてきました。それらを十分に活用し、令和5年度は全国公立学校教頭会研究大会を石川県でハイブリッド開催を行うことができました。石川県へ参集される先生方はもちろん、オンラインで参加されている先生方も目的に沿った熱心な協議をされました。さらに、全会員がフレキシブルに研修できるように、全公教ホームページを通じて、有識者を講師としたオンライン動画を用意するなどオンライン環境を活用した資質向上も図っています。被災地石川県での全国大会開催でした。全公教としても能登半島地震への災害見舞金や単位教頭会への寄付金の呼び

かけ等も行い、石川県公立小中学校教頭会へ義援金としてお渡ししました。全公教では、激甚災害に指定された地域に対する支援体制も構築してまいります。

未来の社会で直面するであろう課題に対応できる子供を育てていかななくてはなりません。予測不能な未来に生きる子供たちを支え、育てていくためには、地震を含む自然災害への対応だけでなく、柔軟性、適応性、問題解決能力、情報リテラシーといったスキルを総合的に身につけさせることが必要です。それぞれの学校では学校教育目標の実現に向けて、様々な取り組みが行われていることと思われまます。一人ひとりの子供を主語にする学校教育では、複線型や自由進度学習をふんだんに取り入れて個別最適な学習の中で子供の意思決定を尊重している学校も多いことと思います。学校教育がこれらの能力を育成する場となり、子供たちが未来に向けて強く、賢く、そして逞しく生きていくための基盤を作ることが必要だと思えます。未来は予測不可能かもしれませんが、準備された心と知識があれば、子供たちはどんな未来にも対応できるのです。子供たちの未来を見据えた教育がなされるよう私は、令和6年度全国公立学校教頭会の会長として、会員の皆様のご理解・ご協力をいただきますが、力を尽くしていく所存です。どうぞよろしくお願いたします。